特集

あきた白神の挑戦～秋田の園芸振興をリードする～

『白神ねぎ』販売高10億円達成に向けて

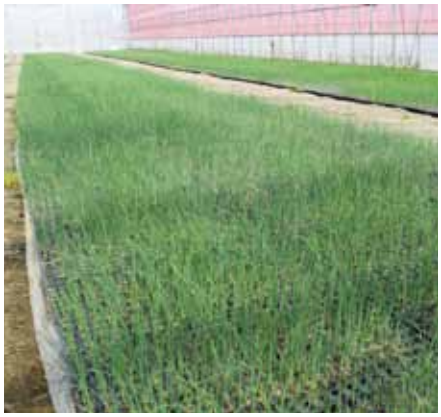
ねぎ周年団地の整備

秋田県の農業産出額は、平成25年が1、716億円で全国20位と苦戦しています。品目は米が6割を占めており、野菜は2割にとどまっています。こうした実態を背景に、米依存体質から脱却し、野菜や花きの産出額を飛躍的に向上させるため、昨年度から園芸メガ団地化に取り組んでいます。

当JAでも複合経営を推し進めており、野菜等の作付け拡大に力を入れています。特に「ねぎ」においては、県内ではトップシェアを占めており、平成24年度には商標登録『白神ねぎ』を取得するなど、秋田県の「ねぎ」生産をリードしている背景を踏まえ、「ねぎ」を中心とした園芸メガ団地化を目指しています。

これにより産出額1億円を上乗せし、目標に掲げる販売額10億円突破、さらには安定的に販売高を維持していきます。

管内の能代市轟地区の水田地帯の一角で、今年度から『白神ねぎ』の露地栽培が始まりました。面積20ヘクタールの圃場（ねぎ13ヘクタール・大豆7ヘクタール）で年間1億546万円の販売高を目指します。入植者は農事組合法人轟ネオファーム、同能代グリーンファーム常盤の2法人と認定農業者の2名で、計4経営体で運営していきます。



↑定植に向けてハウス13棟で栽培